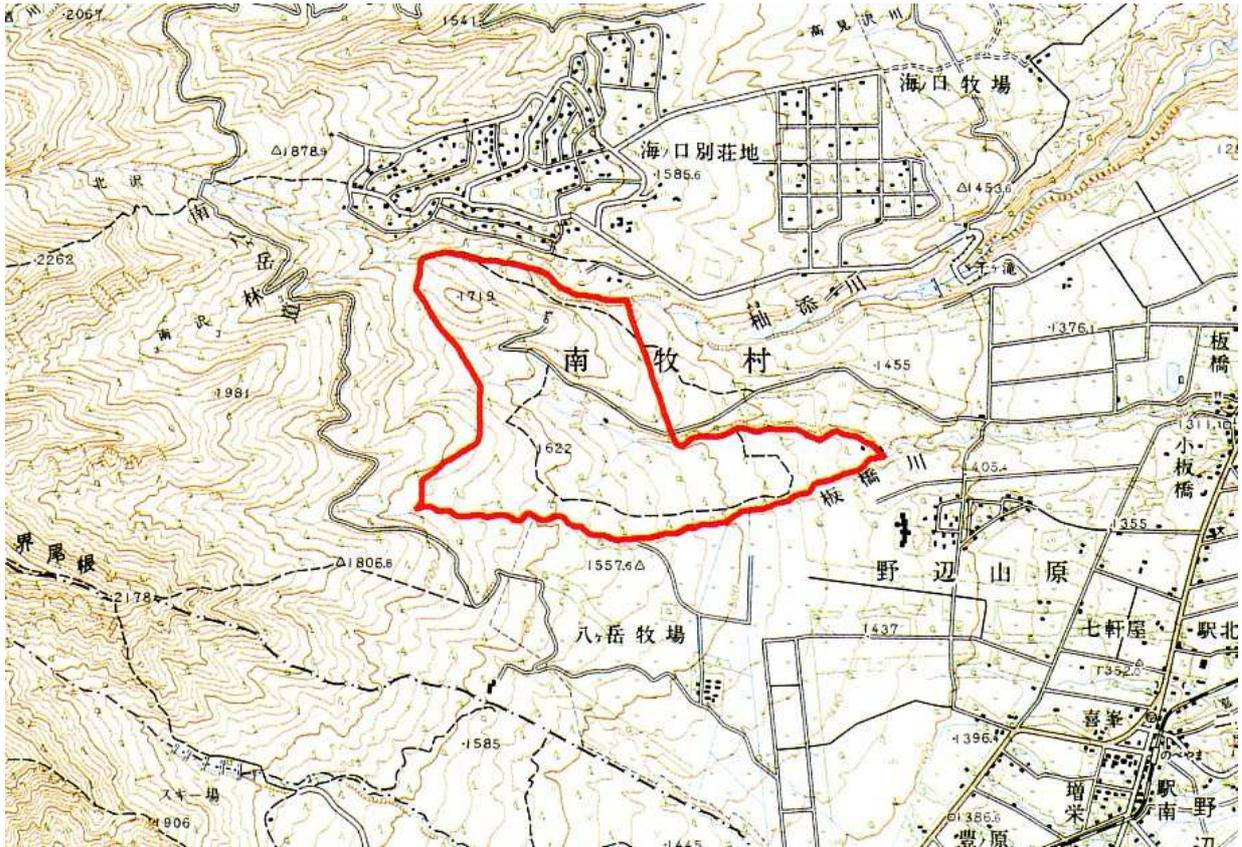


南牧県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図（ハケ岳）を使用したものである。

<沿革>

南牧県有林は、南牧村のほぼ中央にあり、標高1,540mから1,720mに位置しています。

明治45年3月13日に創設され、大正初期から昭和15年頃まで綿々としてカラマツが植栽されました。

戦時中は軍用地として当時の陸軍省に提供しましたが、戦後になって開拓地として適さなかった土地を再び県有林として買戻しました。

<現況・特色>

別荘地や牧場に囲まれ地形もなだらかで、林内にはレンゲツツジやドウダンツツジなども多く見られます。

寒冷地であるためカラマツの成長はあまりよくありませんが、ミズナラやシラカバなどの広葉樹が混交している林分は、針広混交林のモデル林として森林散策等の観光資源としての活用が期待されます。



<森林整備の方向>

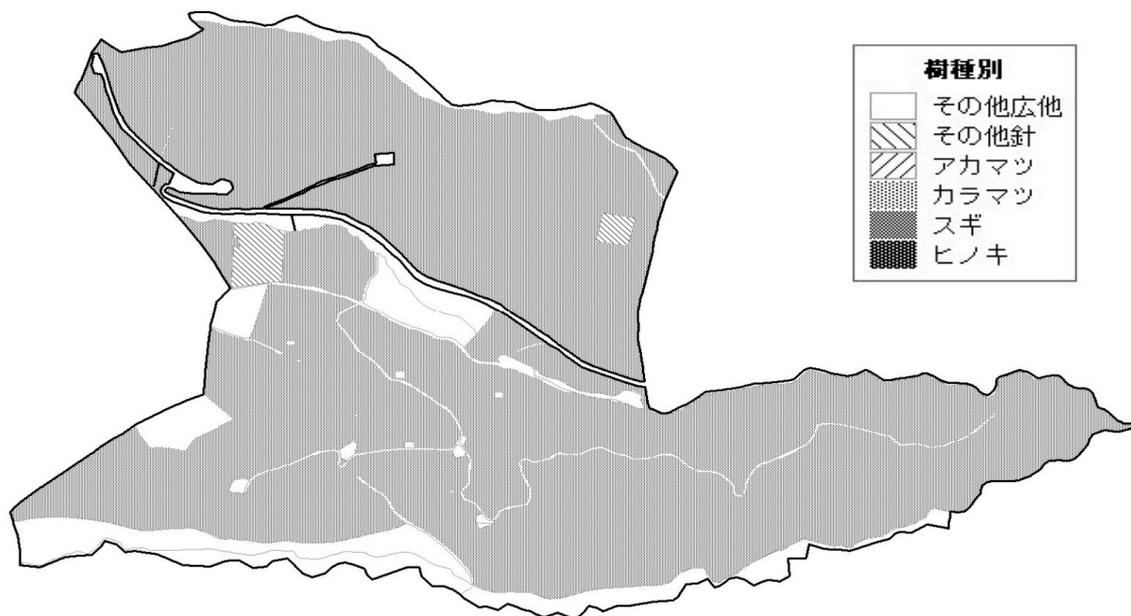
当県有林の地位はIV以下であることから、長伐期施業を中心としたゾーニングとするとともに、中・下層の広葉樹の生長を観察しながら、上層のカラマツの収穫を図りつつ、自然林化を進めます。

また、試験地を設けカラマツ林の天然下種による更新の可能性を検証しています。

<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・ナワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
317.31				238.99	8.21	38.51	31.6
100%				75%	3%	12%	10%



<齢級別資源構成>

